

事例Ⅱ－２ 林業現場で活躍する人材を育てる林業大学校

兵庫県立森林大学校は、林業に関する知識や技術だけでなく、森林について幅広く学ぶことができる2年制の専修学校として、平成29(2017)年4月に宍粟市しそに開校した。2年間で県有林等を活用した1,000時間を超える豊富な実習が組み立てられており、林業就業に役立つ最大22の資格が取得可能である。

また、未来の森林や林業の在り方を総合的に考える力を身に付けられるよう、最新のスマート林業技術や獣害対策、森林セラピーしそ注なども学べる特色あるカリキュラムが組み立てられているほか、林業事業者への就業体験や地域イベントへの出展を通じて地域への貢献力を養うことも目的としたカリキュラムも組み立てられている。

100名を超える卒業生の9割が森林・林業分野又は木材産業分野に就職し、一次産業を支える貴重な人材として活躍している。

北はりま森林組合(兵庫県多可町たかちよう)には、令和7(2025)年4月時点で6名の卒業生が就職している。ある卒業生は、伐倒やウインチ集材、フォワーダによる運材を主に担当しているが、最近ではハーベスタ造材についても技術習得に取り組んでいる。同大学校の卒業生は、安全意識が高く、基礎を身に付けているため、上達のスピードが速いと職場内で高く評価されている。大阪府出身で田舎暮らしに憧れて同組合に就職した別の卒業生も、同大学校で身に付けた知識や技術を活かした働きぶりで高評価を得ている。休暇が取得しやすい点も含めた職場環境が気に入っており、古民家修理の趣味を楽しみながら田舎暮らしを謳歌している。

また、同大学校の就業体験授業がきっかけで翔真林業株式会社(兵庫県宍粟市)を進路先として選んだ卒業生は、フォワーダによる運材やプロセッサによる造材を主に担当している。同社で現場作業を行う初の女性社員であったため、当初は不安なことも多かったが、体調を考慮した働き方に対する職場の理解も深く、安心して働くことができる環境の中で充実した日々を送っている。

兵庫県立森林大学校を始め各地で設置されている林業大学校において、林業現場で即戦力となる人材の育成が一層期待されている。

注：森林セラピーは、特定非営利活動法人森林セラピーソサエティの登録商標。



卒業生の職場の様子